

オンライン児童生徒のメンタルケア

マレーシア・クアラルンプール日本人学校

1 前提

学校環境

- » 当該年度のほとんどがオンライン授業となった。
- » 学校へ登校した際の授業と自宅でのオンライン学習の両輪で、学習を保障するシステムを構築することを目指した。
- » 以前より整備していたG-Suiteに加え、Googleクラスルームでの教材提供や、Zoomを使ってリアルタイム授業をさらに充実させていこうと計画した。

課題と目標

<課題>

- » 教科学習や特別活動、例年の行事・活動などによる関わり合いの機会の減少。
- » 課題配信、Zoom授業、反転学習は、ある程度児童生徒の意欲があることが前提となってしまうこと。

<目標>

- » ICT活用を核とした教育実践を行うことで、ニューノーマルスクール(NNS)のかたちを提案していくこと。
- » 学習意欲が低い児童生徒への支援、意欲付け。

2 実践の内容

活用したICTツール

- » Zoom

具体的な活用方法

授業以外にも、学習支援やメンタルケア、関わりをつくる場面でZoomを活用した。

» 朝の会

単に連絡共有の場としてだけではなく、児童生徒の様子を見たり、教師と児童生徒のつながりや児童生徒同士のつながりを作ったり、係の活動を行ったりした。

» オンライン保健室

月水金の朝に体温や状態を確認するアンケートを行った。悩みを書いたり、つぶやいたり、クイズを出したりすることもあり、児童生徒のメンタルケアに役立った。

» 質問タイム

授業内ではなかなか質問しづらい児童生徒もいるため、分からぬ部分を自由に聞ける時間を設定した。質問したい児童生徒はZoomに入室し、教師に質問をしていた。

» お話タイム

担任と児童生徒のつながりを作るため、Zoomで担任と児童生徒が一対一で気軽に話せる時間を設定した。



3 成果

ICTツールを活用したことでできるようになったこと

児童生徒の「オンラインでもできる児童委員会・生徒会活動をしたい」という声をもとに、児童生徒が主体的に取り組むことができた。

児童生徒、教師、保護者の反応

- » 学校と家庭のデバイス状況も重要である。本校はiPadやChromebookが多く整備されており、授業内で活用する他にも、休校期間中の家庭への貸し出しにも対応できた。
- » 各家庭で活用する際、一人一台のデバイスがあること、しかもある程度画面の大きなものが必要となる。